

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
祝津小       5月14日	1 小学校12学級ということからこの学校は必ずなくなる話だが、22年度に(統合を)やるということですね。	この地区は小学校を2校に再編するが、統合場所をどこにするかは地元と話し合いをしなければならぬ。最初にいつから統合を実施するという話を話し合うものではない。素案の趣旨は12学級未満の学校がなくなるという前提ではなく、市内全域で(小の場合)6学級以下が多いところ、(地区で)何校になるということです。祝津小は小さいので最初になくなる前提ではないが、今後の推計からは、統合を真剣に考える要素だ。
	2 ここが残らないことは頭にある。いつ決定するのが知りたい。低学年のうちに学校を移るのなら、親は最初から統合予定の学校に通わせる。	13Pに今後の具体的な議論のことを書いている。この地区は大きく手宮地区と、高島祝津地区に分かれると思うが、統合の組合せ、通学区、スケジュール、バスなどの配慮事項など、地区ごとの議論が必要。それが1年、あるいは2、3年という地区もあるかもしれず、地域の事情から一律には言い切れない。22年度以降の地区協議で時期を協議したい。
	3 (地区の協議によって統合が)早くて1年(23年度)ということもあるか。	地区でまとまればあり得ると思う。
	4 この地区は中学校もバス通学なので、小学校でバス利用も構わない。(今の進学中学の)北山中が(古く)改修は無理なので、建て替えか、別の学校に統合となるだろう。そういうことから、中学でまた学校が変わるとならないよう、5、6年もかけるようなあまり長い期間の中で(統合の決定を)してほしい。(決まったことには)ついていくのでよろしくお願したい。	この地区は前期の再編ですが、、素案では中学校も1校としているので、小中トータルの話が進み全体の合意を図ることになるが、地域の要望が早くまとまれば、(統合時期を早めることは)最大限調整する。  7月まで説明会で意見を聞いていくが、それをまとめて、また地域に入り進める。
	5 前期の対象は工事を一斉に取りかかるということか。	4つのブロックで対象も多い。現実的には一斉というのは難しい。前期の中でも、第1、第2、第3グループと順次やることも想定している。
	6 一斉には財政的にできないと思うが、(統合を見越して)高島小に入学させ、(前期最終年の)8年後に統合したとなれば、(結果として)バス通学も必要なかったということになってしまう。(統合時期について)どのように考えているか。	これから入学する子供や低学年でいろいろ考えが出てくると思うが、そういう意見も含め来年から話し合いに入る。  統廃合する場合は必ず起きる事象です。素案12P⑧で「特認」の弾力的な扱いを記載しているが、統合時期をいつにするかは、地域で話しをして、どこか(の時点)で決めていかなければなりません。
	7 (中学校に関して)市では学校を建て直す力はないだろうから、北山中新築ではなく、現状の末広中を「直して使う」と言った方がよい。	一般論だが、40年以上経っている学校は耐震対策は、コンクリート(強度)も弱っていることから、補強ではなく改築を考えることになる。再編で学校も半分になれば、その空いた土地に学校を建てることもあり得ると思っている。改築の時期を迎えている北山中と耐震優先度が北山より悪いため補強工事が必要な末広中のこの地区では、単純に新しい方を残して古い方をなくすという考えではない。それも議論する要素だ。

高島・手宮ブロック

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
祝津小	8 (意見)この地区では地域の人が残せと言うが、こういう説明会には出てこない。(残せという意見を持つ)地域の人には来ないから、放っておいていいです。	
高島小	1 桜町中と長橋中は残るという記事があった。この地区で残る学校は決定しているのか。はっきりしてくれなければ興味を持たず、子供に関係ないからと足を運ぶ人も少ない。	新聞に載ったのは、残る学校ということではなく耐震診断をするという記事だ。S56以前の建築基準法で建てられたものが100棟ほどあり、相当程度のお金もかかるため一遍にはできないが順番をつける一定の基準でやっている。最初に5校やり、今年は2校という形で進めている。ただ、学校により築40何年のところもあり、そこは耐震補強ではなく、改築、建て替えの時期になる。建て替えとなると50年位持たせなければいけないので、そういう部分は学校再編の考え方と併せて進めるが、一定の規模の学校について再編計画が全部決まるのを待つというわけにはいかないで、順次手をかけ始める。それが桜町中と長橋中の部分だ。説明会で少ないところは2名の会場もあり、具体的に名前が出ないと関心が持てないという側面もあると思うが、今回41校全部の再編を考えるという一定の基準、方向の理解を得ないと一貫性を欠くことになる。H16年の小学校計画案の時に他の小さな学校はやらないのかという意見があった。まず市全域の基準、ベースで説明会をして理解をもらって、それぞれのブロックでは条件が違うので、22年度からブロック単位で具体的な話をしていきたい。この地区の中学校の場所、小学校でも通学距離が延びるのでその手立てなど協議していく。
6月11日	2 校区が広がるのでスクールバスを出すというのは提示しているのか。	このブロックは3会場終えたが、どこもスクールバスの話が出た。8Pの学校再編を行うに当たっての考え方に通学時のバス利用がある。今も3小学校でスクールバスを運行している。スクールバスでないところは祝津から北山中のように定期代を全額助成している。一定の距離の決めはあるが、現状でも400人位対象となっていて、その制度を当然適用させる。

高島・手宮ブロック

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
高島小	<p>3</p> <p>もう少し具体的に話がないと反対、賛成とも言いがたい。例えば、スクールバスが出ると思っていたら路線バスでバス停までの時間など負担が大きいことが分かりそういう条件では賛成できないとなるかも知れない。その時に校数が決まっているのだからそこは変えないとなれば困る。条件が出揃わない中での説明会なので、大きな反対の声があれば考え直す余地はあるのか。</p>	<p>再編の共通理解を持ちたいという中で、一番良い方法を選択する。市内一律の考えではなく、ベースを決めてブロックごとの状況の違いを考える。「教育委員会の一存でやるので賛成してください」と説得することではない。具体的になってから反対だという方もいるかもしれないが、「こちらの方が良い」という選択肢があれば、こだわらないので一番良い形を選んでもらう。お金のこともあるのでそれと折り合いをつけて考え、ベストでなくてもモアベターな形を話し合う。</p> <p>これまでの会場では、少子化で再編の部分は理解されているという空気を感じる。今回学校数を示したが、実施計画の策定として13Pで4項目あげており地区ごとによって色々な議論があるだろう。H13、14の中学校、15、16の小学校の時とは異なり、一定のベース部分を理解してもらい、それから一歩踏み出そうというものなので、決まったらそれ以上の議論はできないということではなく、ベースをさらに議論した場合にクリアできるのか、できないのかを協議していくことになる。</p>
	<p>4</p> <p>石山中、東山中の統合では割合すぐに実施されたが、今回も大きな反対がなければ2年位で進むのか。</p>	<p>このブロックでは生徒数の推計から望ましい規模の確保から中は1校。以前の時は2年位で統合の準備をしたが、今回も実施計画でそれを盛り込むがそれがどの位の期間になるかは来年度からの話し合いの進み具合による。</p> <p>中学校3校の経過は、H11年12月に計画案を出し、説明会をして12年8月に決定し、10ヶ月ほどの議論だった。その中で3年生が1年残り、14年3月に閉校した。これは当初の原案にはなく保護者との話し合いでそうなった。今回も同じということではないが、議論の中で変わることはあり得るし、1年あるいは2、3年かかる場合もあると思う。</p>
	<p>5</p> <p>統廃合のときは校区の境目では割と自由に学校を選べるとあるが、そのために人数が偏る心配はないか。</p>	<p>指定校変更の弾力的扱いのことだが、東京や北海道でも江別、岩見沢で学校選択制のところがあるが、今回の再編ではとる予定はない。新入学で前もって最初から変わりたい場合や在学学生でも希望は弾力的に扱う。選択制ではないが再編では弾力的に考える。</p>
	<p>6</p> <p>学校は地域の避難場所になっているので中学校から先にやった方が良い。</p>	<p>中心部は学校間の距離が近いが、ここの祝津や蘭島では距離が相当あり、避難所の問題は現実的に考えていかなければならない。違う用途で使う場合も避難所として維持する考え方もある。ブロックで一定の考え方をしなければならぬので、個別の学校や小中両方の保護者と話すなど色々な形で話をしたい。</p>

高島・手宮ブロック

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
高島小	7	石山中をそのような形で残され問題が起きているので、跡利用について教委でもっと議論する必要があるのではないかと。	最近の統合例を説明する。桃内小は地域の声で町内会館となった。東山中は教育委員会庁舎と子供発達支援センターに使い体育館は開放している。住吉中は双葉中で利用し、堺小は2階以上が高等看護学院、1階がシルバー人材センターと町会の活動室。石山中校舎の中では博物館の収蔵庫や埋蔵文化財の収蔵として当面利用している。閉校する学校が多くなることから8Pに跡利用の観点に触れた。これからの話し合いのテーマとして提言を聞く場をつくりたい。
	8	統廃合が広範囲になると地域のお祭り行事に参加する子供がいなくなり、地域との関わり方が変わると思う。	小樽は神社が多く地域で色々な取組があり、統廃合の結果としての工夫は考えなければならぬだろう。お祭りに参加できなくて困るという気持ちは分かるが再編の足を止めるわけにはいかない。  校長の経験から話すと、年間35週の授業を満たし工夫できることもあるので、学校が地域とのつながりについて考えることもこれからの課題だと思ふ。
	9	(要望)幼稚園や保育園の保護者にどれほどの広報をしたのか。耐震診断の新聞報道を見るとその学校は残ると思う。もっときめ細かい説明してほしい。	
北手宮小  7月1日	1	この学校は小規模で人数が減っている。いずれこの学校は無くなるという憶測が広がり、指定校変更を申請する人が多くなったからだと思う。教育委員会が指定校変更を認める時の基準はあるのか。教育というのは皆が納得した上でやらなければならない。教育委員会が是非再編について理解してほしいというなら、説明ももう少しやり方があるのではないかとと思う。この計画を見るといきなり手宮小と北手宮小を最初に統合しようということで、このようなやり方はこれから子供を小学校にあげる保護者にとって不安をあたえるのではないかと。	指定校変更の制度とは、本来の指定された学校以外の学校に申請をもって認可される制度である。その変更理由が認定基準に合致するかどうかで、認定にならない場合もある。その認定基準については国から指針が示されていて、それに合致するかどうかで市教委は判断をしている。ある学校が先行きに不安があるので、指定校変更を認めるということで変更を認めるという認定基準ではありません。  市内を大きく6ブロックに分けてその中で、前期と後期という大きな分け方をしていく。塩谷・長橋地区、高島・手宮地区、中央・山手地区、南小樽地区、小規模校が多くある地域を前期に、そして後期の部分を朝里地区と銭函地区という位置づけでこの素案では考え方を示している。どこの会場でも同じ説明をしていて、手宮、北手宮を先行して行うという話は事実ではない。市内全域で、今回は学校の再編ということで、素案を作って説明会を42か所で行っています。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
北手宮小	2 指定校変更について、実際に、学校を変更したいといった場合、申請理由が事実かどうかで変更を認めなかった前例はあるのか。	申請理由が認定基準に合致するかどうかで判断するので、その認定基準に合致しない時には認可できません。
	3 現場としてはなんとか対応しているが、実際、学校は複式で困っている。認定基準というものと実際にやっていることが、現場からいうと乖離しているという印象があるがどのように考えるか。	北手宮をなくすから特認が増えていると言うが、現状では北手宮をなくすということが前提ではない。特認というのは送り出す場合もあり、受け入れる場合もある。北手宮がなくなるから、特認が多くなるという部分で説明をしていないし、そういう判断基準で特認を認めるということはありません。
	4 北手宮小の小規模の現状については分かっている。聞きたいのは、北手宮小学校がなくなったあとの善後策だ。ただ、人数が減っているからとかの説明ならもういらないと思う。このような説明会を何回も持つこと自体、無駄なような気がする。	これだけ子供が減っている中で、小樽市として、今ある41校を将来的にもそのまま置いておくことはできない。一定程度の再編をしていかなければならないという考え方を持っている。市内を6地区に分けて、その中で、学校数は何校が適切なのかを話をさせていただいている。それで、その地区の単位ごとにどの場所が良いのか、ある学校を残した場合、通学距離や通学手段はどのようになるのか、そういったことを22年度から具体的な議論をしていきたいということで、この素案をまとめている。北手宮がなくなるということが今日の説明会の議論ではないということをご理解をいただきたい。
	5 噂や新聞報道では北手宮はなくなると言われているが。	そういう噂を聞いたことはないし、新聞で北手宮がなくなるという記事も見ることがありません。
	6 教育委員会の窓口で、北手宮がなくなるから手宮西に行った方が良いのではと言われた保護者もいると聞いたが。	平成16年当時は、北手宮を統合するという案が、教育委員会にあったのは事実。もちろんその時点では決まっていなかったのかもしれませんが。
	7 指定校変更の申請に教育委員会に行った時に、窓口の女性に北手宮がなくなると言われたが。	

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
北手宮小	8 統廃合の話が出た時から急に子供が減って複式学級ができたことについてどう考えているのか。	<p>特認というのは、保護者の申請を基にしている。その保護者に対して、子供が特認することによって、北手宮が複式になってしまうとは言えない。そこについては理解をしてもらうしかありません。</p> <p>特認の認定基準に合致してもこれを認めると学校が困るので、認めないという形には、市教委はしていない。あくまで認定基準に合致するかどうかで、その申請の認否が決まるのであって、学校が困るから認定しないということはしていません。</p>
	9 この地区で耐震基準を満たしているのは、祝津小と手宮西小だけだが、この計画案を見越して手宮西小学校を建てたのか。手宮西小学校が改築になったからそちらに子供が流れていっているような気がする。	平成4年に手宮西を改築しているのは古くなったからということだ。教育委員会でこの適正配置の議論を始めたのは平成11年で、手宮西小学校は平成4年に改築しているわけだから、平成4年の段階でどこの学校の校区とかどこの学校をどうするかという考え方ではなくて、単純に老朽化した施設を改築するというスタンスで進めたことです。
	10 この地域で統廃合を考えると基準を満たしているのは手宮西しかない。しかしあの学校は、校舎としては新しいが、グラウンドは誰も目の届かないところにあるし、施設としては子供たちを見守る学校ではないように思う。統合するのであれば手宮小学校を新築してほしい。それならば私たちも協力できると思う。手宮小学校は手宮(地区)の中心なので、そこに子供を集めてほしい。	基本計画では、この地区については小学校2校、中学校を1校としたときに、通学距離や安全の問題やグラウンドの面積の問題など色々な条件を勘案して、どこが良いのかを考えてこの計画をまとめ上げ、次にその地区ごとに小学校中学校含めた具体的な協議をしたいと思う。一つのプランではなくて、複数のプランを持って協議をすることとなる。

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
北手宮小	11 手宮西小が残って、他の2校がなくなるという前提ではないということか。手宮西小学校は耐震もクリアしているし、校舎も新しいということは、統合校の位置を決めるとき影響がないということか。	新しい学校を一つ建てれば40～50年は使わなければならない。比較的新しい手宮西小でさえ築十数年経過している現状である。今後もこの地域で小学校5校を持ち続けることはできないことから、一番良い学校の位置を考えての再編が必要と考える。学校の位置を決めるに当たっては立地条件なども考慮に入れて協議していかなければならないが、ブロックごとに協議する際は、小中学校を併せた議論や小学校何校かでの議論も必要だと思う。特定の学校を残すことを前提とした議論は全く考えていない。
	12 例えば、北手宮がなくなるとして、私が在学しているときにできた雪まつり資料館はどのようになるのか。	ここの学校の一つの特徴として、雪まつりがあるように、どこの学校でもそれぞれの特徴と、伝統と歴史は持っている。学校を卒業された方へのこれに対する強い思いは理解できる。今までの適正配置でもそれぞれの学校のメモリアルという形で記念室を設けて思い出の品を展示している。この先の議論になるが、そういうことをやっていかなければならないだろうと考えている。
	13 小規模校の良さについては北手宮の子供がやさしい子ばかりなのを見れば分かる。この地区の小学校の統合を考える時に、財政的な理由から手宮西小に統合になるなら絶対に反対だ。あの学校は(校地の形状から)子供に目が届かない。子供はやはり大人の目の届く範囲で活動してほしいと思う。大人が子供を不安のない環境に置いてあげて、なおかつ通いやすい手宮小学校の場所が適地だと思う。母校がなくなるはもちろん寂しいが、今こういう状況で全市的に進めていくのであればやむを得ない。統合校が手宮小学校の場所であればやぶさかではない。	この素案を年内にまとめて、来年度から具体的なことについて地区ごとに協議していきたいと思う。その地区で一番良い場所に学校を残していくということになると思う。小規模校については、5、6Pにあるとおりの先生は努力しているし、小さいからこそできる部分も確かにある一方でこの少子化の中、「望ましい学校規模の考え方」に4項目書いているが、勉強だけではなくて学校で色々な活動する中では、やはり一定の規模は必要とのベースに立つものである。昭和33年当時、4万1千人の小中学生がいて、それだけの学校を作ってきた経過はあるが、去年から小中学校併せて9千人を切っている現状の中で、これからの小樽の学校のあり方を今回示して、来年から具体的な議論をさせてほしい。
	14 子供の事を考えると、1クラス30人は望ましいかもしれないが、10人のクラスで勉強していた子供が果たして30人40人のところで対応できるのか心配がある。今1クラス10人で習っていることからすれば、一概に1クラス30人が望ましいというのは北手宮小学校の親には通用しない、その辺のことを考えてほしい。統合するのはやむを得ないと思うが、例えば30人学級に2人の先生が常時つく、そういうフォローなどを明確に言ってくれないとなかなか納得できない。	小樽の場合、ほとんどの学校が小規模化してきているので、そういう場面は他にもあると思う。子供たちの不安をどれだけ少なくできるか、どれだけ抵抗なくやれるかは事前の準備と事後のケアに尽きると思う。堺小が稲穂小と花園小に分かれた時も北手宮小と同じように1クラス10人程度のクラスが5人ずつに分かれた。事前交流や先生の異動に配慮するなどをしたが、このような手当はしていかなければならない。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
北手宮小	<p>15 計画については大体分かった。計画期間が22年からで、施設整備も伴うのであれば着工期間を考慮して既に青写真ができていなければならないのではないかと。具体的な説明をした時に地域から反対を受けてそれを白紙に戻したとき困るのは子供たちだ。具体案はいつ頃示すのか、教育委員会の決定事項として示すのか。</p>	<p>この計画は、小樽市の小中学校の学校再編の進め方の基礎になるもので、これを基本計画として年内にまとめていきたい。13Pに来年からの実施計画づくりで(2)にポイントを4項目上げている。「手宮小の位置が良い。」という意見があったが、その地区の中で、統合の組み合わせ、それと、統合するとしたら学校の位置というのはどこが良いのか。まずこの議論から始めて、その中で一定の合意ができれば、それによって通学区域を決めることができる。通学区域が決まると、次は統合に向けたスケジュールということで素案に書かせていただいている。スケジュールでは、例えば準備期間として、子供同士の交流とか、保護者の交流などにどれぐらいが必要なのか。また、耐震化や老朽化の問題を議論していくということになる。その中では耐震化等が先行していくかもしれない。今いくつかの学校で、耐震診断や耐震の実施設計に着手しているが、耐震診断に6ヶ月程、実施設計にも6ヶ月程掛かり、それから工事に入っていくことになる。このような過程を経て、計画では来年22年度からスタートということ考えているが、22年度からどの学校の学校をなくすのではなくて、具体的な議論を始めるということだ。地区によっては、23年に統合するところもあるかもしれないし、協議に時間が掛かってもっと後になるところもあるかもしれない。今回の計画が前の計画と違うところは、一つは具体的な校名もいつからやるという具体的な時期を出していないということが挙げられる。そのような手順を踏んで小樽市全域でやっていくということの基本計画ということです。</p>
	<p>16 23年に統廃合するとなったときは、今通ってる子供たちは、通学する学校の学区が変わるから、今一緒に学んでいる子供たちが一緒にの学校に行けるという可能性はないのか。別々になるかもしれないということで(移る学校を)選べるわけではないのか。</p>	<p>校区は校区としてきちんと決めなければならないというのは原則。ただ統合するということになると、C学校からA学校に行く子、B学校からA学校に行く子と色々な組合せがある中で、12P⑧にあるように、堺小学校の例があったが、(校区が)二つに分かれた時、住んでいるのはA校の方だが、色々な事情でB校にしたいという、その辺の弾力的な対応はしなければならないと思う。例えば3年後にA校が統合になることが決まっていて、来年入学する子がいる場合、基本的にはA校に入ってから3年後にB校に行くようにしていただきたいと思っている。ただ保護者の中では、どうせあとで移るのなら、最初からB校に行きたいというのも分かるのでその辺も一定の弾力的な対応はしなければならない。色々なことを想定していかなければならないと思う。誤解しないでほしいのは、原則は一度A校に入ってからB校と一緒に行くということです。</p>
	<p>17 現在中学生の子が小学校の時に通学距離を考えて指定校変更を認めてもらったが、後で聞くと、申請の時に担当から特認理由を教えられた人、必要な書類がなくても受理された人がいて対応がまちまちだった。教育委員会に対する不信感につながるのもこのようなことはなくしてほしい。</p>	<p>言われた通り、手続きというのは基本的な部分ではあまり弾力的にするべきではない。ただ、子供に対しては、あまり良い言葉ではないが、教育的配慮という部分は考慮しなければならないこともあるが、それも他の方から見ても理解されるようであればならないと思う。</p>



高島・手宮ブロック

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
北手宮小	18 来年度入学を予定している。私の周りでは北手宮がなくなるという噂が先走ってしまっていて、高島小や手宮小など近所でもバラバラな学校に行っている状態である。この学校がなくなるわけではないということをきちんと来年度入学する保護者の方に分かるように、通知していただくということではないのか。	計画では、小樽市の41校の学校がここがなくなるとかなくならないかということを決めていない。どこの学校を残すべきなのかという具体的な議論、それをいつ行うために準備をするのかというのは来年から何回も議論をしようと思っている。そういうことでこの説明会を行っており、計画も作っている。そして各家庭にもお知らせをしている。
	19 基本計画を作って、それから具体的な話をしているということであればかなりの年数が掛かるということを新聞でも良いから使って浸透させてほしい。準備段階でかなりの年数があるわけだから、それを保護者によく分かる形で説明をしてあげないと紙を配っても同じだと思う。平成22年からスタートしますと書いていると来年からうちの学校がなくなると早とちりしてしまう。	どこの学校をなくすということで考えているものは今は何も無い。逆に言えば、どこの学校もみんな残るのかというと、そのようにも考えていない。学校再編はしなければいけないと思っているので、もし保護者の単位などで説明してほしいということがあれば、声をかけてくれれば説明できる人間が行って説明したいと思います。
	20 今、上の子が3年生で来年度下の子が入学予定。不安なので手宮小学校のお母さんから話を聞くと北手宮はなくなるから来年度下の子を入れない方が良いと言われた。そういう噂が本当に広まっている。	
	21 8年間とは、8年間の間に少しずつなくなっていくものなのか、それとも8年後に一斉になくすものなのか。8年間の間で、ある程度何年か後になるというのをはっきりと決めてもらった方が、親にとっても子供にとっても心の準備ができる。	8年ということについては、8年後にやるということは考えていない。その地域で一定の合意ができた段階で進めて行こうと思っているのでAブロックでは23年、Cブロックではもっと後になる場合も想定している。もう一つ考えなければならないのは、今回は小学校と中学校の兼ね合いの部分も時期的なものについて考えていかなければならないことだ。それについては来年から議論をさせていただきたいと思う。今から24年や25年にやるというのは、私どもとしても予測がつかないので、今日のところは言いようがないということでご理解願いたい。
	22 どこの学校がどうなるという事は分からないけれど、この地区では小学校は2校、中学校は1校になるということをはっきりとしていると言われたが、この地区では、特認校として祝津小学校は必ず残ることか。	どこの学校が残るということは全然決まっていない。全部の学校を対象に再編で考える。
		学校名も何もなく、学校数だけが決定ということでなく、あくまで計画としては、この地区としては、小学校は2校、中学校は1校そういった立場で、来年から議論をさせていただきたい。

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
北手宮小	<p>23 小学校2校、中学校1校ということについては、決定ということで良いのか。それを決定だとすれば、それについて地域から要望出してほしいという趣旨なのか。</p>	<p>これは素案であって最終版ではない。ブロックごとの学校数が入っていて、他のブロックにも同じように入っている。それからそれ以外に、前段で学校再編の進め方、考え方そういったものも含めてこの中で示していて、この基本計画の素案について今回こういう意見交換も含めて説明をさせていただいた。この説明会が終わった後には秋にパブリックコメントで意見を求める機会を考えていて、教育委員会はそれに対して、また公表する形で考え方を明らかにしていくが、その中で取り入れることが良いという意見があれば、それをこの基本計画の原案の中に取り入れて最終的に基本計画として決定をしていく。それは年内を一つのめどとして進めていきたい。そのあと22年度からは、具体編としてブロックごとの協議に入っていく。</p>
	<p>24 ここにある地区ごとの学校数が、地域からの要望でもっと数が多くて良いのではとなった時、それをさらに検討するというが、曖昧な考えではいけないと思う。それでは色々な意見が出た時に收拾がつかなくなって前と同じようなことになるのではないか。</p>	<p>この地区の学校数で言えば、小学校2校、中学校1校と示し、地域の意見をこうして聞ける。中には、全部残せという意見もあるかもしれないが、(それぞれの地区の)意見を聞いて、そこで意見を全部飲み込むわけにはいかないと思う。最終的に教育委員会として、色々な意見を聞いたけれども、こういう案でまとめていく。それを今、手順として説明会をやり、それから10月ぐらいにパブリックコメントをやって、そして教育委員会として最終的にこの素案をまとめて決定して行こうと思っている。現状でこの学校数についてどうなのかと聞かれば、私どもはこの学校数でと考えている。</p>

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
手宮西小     6月30日	<p>1 10ヶ月の子供の母親だが、再編が終わる頃小学校入学。12P①「新設統合」の意味を詳しく知りたい。</p>	<p>統合の考え方は2つあり、新設統合と受入れ校がもう一つの学校を編入する吸収統合がある。通学区域も受入れ校の区域が広がる形の統合だ。H16の手宮地区での小学校適正配置は手宮西小を受入れ校とした吸収統合の考え方だった。H13、14の中学校統合もそうで、これまでの形だった。今回は市内小、中の再編成なので、学校をなくして他の学校にくっつけるというやり方は外していこうとしている。ブロックで5校を2校にする時に、子供に一番良い条件はどこかという話し合いをして、通学区域を決める。統合の組合せの学校は一旦閉校して、新しい学校をつくる。新しい校舎を建てることもあるが、全部はできないので、今ある学校を直して使うこともある。耐震化が必要な学校が統合場所にふさわしいとなれば補強工事を行う。そういうことで新設統合をイメージしている。場合により母体校の中でやることもあるかも知れないので、視野に入れると表現した。</p> <p>前の統廃合は、(端的に言えば)片方の学校に空きがあるのでもう一方を入れるというような考え方だったが、耐震性で耐えられない校舎が多いことも理由として学校の再編成に取り組むが、ほとんどの校舎が古いので統合後もそのまま使うことにはならない。地震に耐えられる校舎にしていく。単に学校を合わせてそこに子供たちを移すのではなく、学校の見直し、不足教室をどうするかまで考えていかなければならないと考えている。この学校は校舎の心配はないと思うが、その他の面でこの機会に言ってもらえれば計画の参考にしたい。</p>
	<p>2 小樽市としてこれから校舎を新しくする考えはないか。予算的に無理か。</p>	<p>全く0%ではない。15年の中で41校を21校にするが、古くなっている学校の場所が通りやすいという皆の合意があれば、古いままにするわけにもいかないし、耐震補強するにしても40年、50年経っていけば、雨漏りがひどかったり、コンクリートが弱っているので、そういう場合は建て替えになる。財政が苦しいので、全部そうするとは言えないし、一斉にするとも言えないが、15年の中でそういう考えの余地はある。今はそこまで話せません。</p>
	<p>3 手宮地区では祝津小と手宮西小のみ耐震基準を満たすが、高島小は児童数から耐震補強しなければならないと保護者としては考える。手宮地区は前回は協議したが、耐震性能からことになった時に、校区が広くなり、今までの校区のイメージで捉えられる。保護者が安心して統廃合を検討するのに必要なものは、今回は小樽市全体での見直しだということで、学校から帰ったあとの安全、遠くの友達のところに行くことなど新しい不安が出てきたり、スクールバス利用や路線バスのこともある。東京のように定期券で好きなところに行けるようなのも良い。学校運営でも不安定なものが出てくると思う。そういう場合、教育委員会主体で細かい説明を作っていくと、色々な方が安心すると思う。</p>	<p>以前の小学校計画を取り下げたが、不十分な部分があったと思っており、その反省から全市的な再配置となった。素案7、8Pの「学校再編を行うに当たっての考え方」でこれからの話し合いの前提条件を①から⑧まで(逐条解説略)ある。今の段階では基本的な理念だが、念頭において話し合いをしていく。</p>

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
手宮西小	4	手宮西小の保護者はここが統合校になると思っているので今のところ疑問はないと思う。この先いつになるか、北手宮が早めに来るのかということはあるだろう。校舎はきれいで、2学級になっても大丈夫なので、このままだと思いい質問がないのだと思う。	<p>誤解を払拭するが、この学校が統合校とは誰もどこでも決めていない。思うのは自由だが、16Pのこのブロックの地区の様子や学校施設の現状を見ると、手宮3校は同じ6学級編成で、手宮西小のH26は97人、手宮小は101人。100人前後と言っても100人で壁があり、100人以下の教員配置基準では7人から6人になるので、応援や仕事の分担ができる学級担任以外の先生が配置されず学級担任数だけになる。また、手宮西小はH4年で耐震基準もクリアしているが、11学級規模の校舎建設。12学級規模で統合となれば教室転用など窮屈になる。子供の推移、施設の状況、ブロック内での通いやすさ、アクセス、将来的にも学校立地条件としてどうかということ話し合っていかなければならない。手宮3校の話し合いで、手宮の西よりもこっちの学校だという方もいるかも知れない。</p> <p>来年度から、どこに学校があったら良いのか話し合っていくが、今日は基本計画の話で、ここをどうするという場ではない。皆さんの思いを考えておいてもらい、この先の話し合いで通いやすい学校にしたいと思っている。</p>
手宮小	1	素案は考え方で、いつまでに決めてその後どうするかというスケジュールが書かれていないがどのようになるのか。	この基本計画をいつ作るかを素案に書くわけにいかないのでは書いていないが、年内に計画としてあげたい。そのため、説明会で回り、秋にパブリックコメントをして、必要な修正を加えていきたい。その後のことは13Pにあるように、ブロック別に実施計画を作ろうと考えているが、それは計画のあと22年度からになる。
	2	素案ではどこまでを決めるというのがはっきりしない。ブロック内の学校をこの数にしますということか、あるいはこの学校とこの学校とに決めますというのを年内に決めるということか。このブロックで小学校を5校から2校にすることを決めるのか。	基本計画では、望ましい規模から見た学校数で今後再編計画を考えますということまで。どこが学校の位置になり、いつ統合するかなどは、13Pの実施計画に委ねるということも含めて書いてある。5校を2校に再編するというのが基本計画の中の学校数の位置づけなので、そういうことを決める。
6月4日	3	年内にそこまで決め、そのあとについては、対象ブロックの中で話し合いがあるというらえかたでよいか。	そのとおりです。
	4	中学校の検討について話し合う対象は、その時に在籍する保護者となるのか。今の小学校の保護者が中学校のことを考えていくことになると思うが、どのような人が中心になるのか。	今回の計画は15年のスパン。手宮小なのであえて言うが、前回の適配案は端的に言って1年、2年後の話だったので、在籍する保護者がやりとりの中心だった。今回は長い期間で市内全部を対象にする計画。学校に関係する方だけではなく、地域の方も関心が高い。小学生前の保護者もどうなるんだろうと他の会場で来ていたが、関心が高い。今回も幼稚園、保育所に案内し、町会回覧もやって呼びかけた。在籍する保護者だけを対象にするつもりはないし、小の親が中のことを考えるのは当然なので、22年度以降の話し合いは、最初から制限して対象者を決めて呼びかけることは考えない。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
手宮小	<p>5</p> <p>前回、費用のことを出してくださいと言っても関係ないとしていたが、素案では統廃合に当たっては理由に費用のことも盛られている。そうすると、この地区では手宮西小が耐震に対応し、手宮小は古い校舎なので、手宮西が残ることがはっきりしているのだが、手宮西は地区で考えると端にある。これからの話し合いで、費用面の重要度合いはどれ位あるものなのか。</p>	<p>計画の前提は、小学校、中学校の両方やらねければならないということ。16P「学校施設の状況」にあるが、祝津小と手宮西小が耐震基準に合致し補強の必要はなく、他は全部必要がある。その中で手宮小はS39年建築で44年、北山中はS33年で築53年。コンクリートの耐用年数から50年程度が学校の建て替えを考える時期。祝津小が新しいからといってもキャパシティの問題が出てくる。残す学校で耐震補強が必要なら補強をしなければならないし、改築の時期なら改築しなければならない。小中合わせて配置を考えるわけで、この地区は7校を3校にということなので、4か所余る。位置関係も含め新しい学校を作るという考えもしていくとなると、単純に手宮地区3校の小学校で一番新しいところを残すという考え方だけではいかないだろう。北山中と末広中で1校にするとすると、少し新しいから末広中ですかというだけでの議論にはならない。末広もあと10年経つと築40年になるわけですから。それでは中学校の場所としてどこが良いのかというような議論を22年度、どこの地区でも同じようにしていく。</p>
	<p>6</p> <p>小学生と就学前の子がいるが、前期の間に自分の子が統廃合に関わるのかが一番気になる。8年間のどの時期に行われるのか。これから入学する場合は、最初から校区外でも入学することは認められるのか。それと、どこが残るのかということは教育委員会が決めるのか、一般の私たちの意見も聞いてもらえるのか。</p>	<p>7割以上が小規模校だが、6年後には8割になることから、学校の再編成を行うが、市内一律に同じスタートラインではなく、特に規模が小さい学校が固まるところは早く話し合いをしよう前後期に分けた。このブロックは前期8年だが、統合の時期は22年度からの話し合いで決めて実施計画で位置づけようと考えた。話し合いである程度の合意ができれば具体的な準備に入るが、交流や学校行事との兼ね合い、肝心な新しい学校でどう教育活動をするのかという先生方の話し合いや勉強の進め方など助走期間を作り合流することを考えると、ある程度の期間を設けて実際の統合となる。準備期間が1年、1年半になるのか分からないが、教育委員会がこうと決めることではないので、話し合いが一番良い方法を見つけていく。</p> <p>先に統合校に行けるかという質問だが、12P⑧にあるように、住んでいる校区の学校という原則なので自由には言えないが、弾力的に対応する。残る学校を決めるときの地域の方々の意見をどのように反映されるかということだが、13P(2)で要点を書いた。統合の組合せをどうやるか。組合せの結果、統合学校の位置はどこになるのか。位置が決まることで校区も当然動かす。統合が決まり事前の交流期間も必要で、統合のスケジュールはどのくらい置くか。それを来年から意見を聞きながらやる。皆さんどうですかと聞いても色々意見もあるだろうから、「ここどこういう条件がある。このように校区が変わるとこういう結果になる。」という議論素材を提示していきたいが、一つの要素として、通学路の対応も出るだろう。教育委員会が、「ここここを統合してここに作る」として決めるのではなく、そういうことも含めて実施計画を作るときの議論となる。いつまでに何を、という質問もあったが、H15、16年の適配計画案の仕組みと比べると相当違う。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
<p>北山中</p> <p>5月25日</p>	<p>1 祝津からバス通学しているが、スクールバスか路線バスかが大きな問題。北山中が末広中に統合となり、路線バスで通学となると、高島3丁目が終点なので、朝夕だけでも祝津発着にしてほしい。定期券補助はとてありがたいが、買いに行くことは意外に労力がかかる。路線バス通学となるならば、担当の方を置いて、学校で定期券を受け取れるような方法を考えてほしい。また、説明会だが、計画実施の時はもう(自分たちの)子供が在学していないので、幼稚園、保育所の親の声を聞く機会を考えているか。案内の時は(未就学の親たちにも)分かりやすくしていただきたい。</p>	<p>このブロックの中学校は1校で、対象は北山中と末広中。(統合場所の)A案は北山中、B案は末広中という選択になるが、小を含めたブロックでの再編ということから、その用地全体の使い方というC案も考える。22年度から皆さんと話していきたい。計画期間が長く、就学前の子供も関わりあることで、地域全体の話から、学校に直接関わらない住民も関係する。会場は42か所でどこに来てよいし、中学校に配ったプリントも幼稚園、保育所の全家庭に配った。そういう案内をしている。</p> <p>校区が広くなり通学距離が伸びた場合の交通手段の話だが、現行の通学助成制度の活用を基本にする。路線バスの高島3丁目の終点を祝津まで延ばす件は、路線の利用実態があり可能かどうかはバス会社と協議していかねばならず、教育委員会が一概に延ばすという話ではない。定期券の購入を学校でという話は、北山中で10人程度対象だが、基本的に定期券の販売と購入の扱いを学校でということ難しい。</p>
	<p>2 (要望)今、定期代は後払い。統合となれば負担が増えるわけなので、前もって、お金ではなく、定期券を渡す方法が良いと思うので組み込んでほしい。</p>	
	<p>3 説明会の参加は12人程度。この少ない参加状況で説明会が成立したと思うか。</p>	<p>成立の要件は定めていないが、今日参加した皆さんに素案の説明をしているところなので、それ以下でもそれ以上でもありません。</p> <p>この場で何かを決めるということではなく、素案の説明をして質問や意見をもらって年内に計画をということだ。成立、不成立ではなく理解してもらおうという場で考えている。</p>
	<p>4 他の会場の参加状況は。</p>	<p>42会場で行うのが今日で8回目です。会場により10人以上のところもあるし、5、6人のところもありました。</p>
	<p>5 前期は、小規模校の多い地区が該当で、この地区は前期。確かに小学校は当てはまると思うが、中学校は超小規模というわけでもないのでは後期でもよい気がする。地区で小、中まとめてやる理由があるのか。</p>	<p>市内を6ブロックに分けたが、この中学校規模は、北山6クラス、末広5クラスと小規模に変わらない。それが極めて小さいかどうかは、教育委員会は5、6学級は小さいと思っているが、そうではないと取る方もいると思う。小学生が中学生になるまで何年かあるので、統合を時間差でやるとしても、減ることは明らかなので、一緒に小と中の組合せも含めて早めに話をしていかなければ、小中で通学区域のねじれを生じかねない。このブロックの姿について、一定の方針や結論を出した方がよいのではないか。小と中を同時に進めることについては、必要があれば1、2年ずれることもあるかもしれないし、同時期がよいとなれば同時にやる。ここは柔軟性を持ち進める。</p> <p>補足するが、6Pに教員配置の表があるが、中学校では3学級で9人、9学級で16人という配置だ。先生が多くなれば、数学の先生が理科を、社会の先生が国語を教えるという免許外の対応ではなく、免許を持つ先生が教えることが可能になる。中学校の小規模な学校は、各教科の先生がいる仕組みになってほしいという思いです。</p>

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
北山中	6	<p>私は学校とはすでに関わりませんが、町会回覧を見て、これからの日本を支える子供をどう支えるかと考え参加している。「適正化」は学校の運営の適正化で、予算をどうつけるかという観点だ。「小規模校は緊密な人間関係、目が行き届きやすい」とあるが、大規模校は、目が届きにくく学力が低下するという話やいじめも見逃しがらだと聞くが、小規模ではこうした問題は聞かない。学力テストで一番の秋田では1学級2人の先生で学習させている。少子化は濃い教育の良いチャンス。子供は自分を大事にしてくれることに敏感なので、学力を上げるためにお金をかけることが必要。案では、いかに学校を統合して予算を少なくするかを考えているようだ。子供にお金をかけることで未来に希望が持てる。10年、20年後の小樽全体のレベルアップの効果がある。小樽には幸いにも高台に学校があるので、体力面で自然と良い運動になっている。スクールバスで通うと、朝は頭が活性化しないことが心配だ。また、途中で地域のお年寄りや挨拶を交わすことで社会性が育まれる。教育予算を削るのではなく、子供に投資すれば、明るい未来を築ける。知、徳、体の健全な育成を考え計画に反映させてください。</p>	<p>意見のとおり、小規模な学校の方が一人ひとりに目が届きやすい長所は見られ、心の通う教育も十分できる。ただ、学習活動を考えれば、教室で授業を受けるという限られた空間の指導ではそうだが、教育改革の中で学習活動も能動的になり、自ら学び調べるなど一人ひとりの興味・関心や課題、学習スタイルに応じ、教室の中だけでは納まらない多様な学習形態も求められる。個に応じた教育活動を展開するために複数の先生が協力して個別指導に加え、グループ指導、習熟度別指導など多様な多様な学習形態を取り入れる規模があった方がよい。体力の向上、心の教育については、体育、道徳の教科、学校行事等で取り組んでいるが、学校再編の中でも議論されていくと考える。</p> <p>この会場の参加者が少ないという意見があったが、(今日まで)3校で終えたが、これから同じ説明をしていく。それぞれの会場で、参加する方も違い、素案に対し別の意見も出ると思うので、別の会場に来場しても結構だ。説明会の質問等はホームページで公表する予定です。</p>
末広中	1	<p>H11年の基本方針と実施方針は、H19年の在り方検討委員会の答申によって廃止になったということでしょうか。</p>	<p>今回、素案という形で全体計画を組み直したので、適正化基本計画の段階で前の方針を廃止し改めて計画を作ったということだ。小学校の計画案は、前回の時に取り下げているので、実施計画は今はない。</p>
	2	<p>小の実施計画案の取下げは公表したのか。</p>	<p>手宮地区含めた取下げに関しては公表しました。素案2Pの「基本計画の構成」にありますが、「H11年2月の基本方針、8月の実施方針は新たにこの計画を定めることにより廃止する」と書きました。</p>
5月28日	3	<p>2Pの欄外にある検討委員会のメンバーは、委員長以外の構成は公示しているか。</p>	<p>教育委員会のホームページに適正化のページを開設し情報公開しているが、検討委員会の会議録、答申、メンバーを公表している。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
末広中	<p>4</p> <p>スクールバスの場合には直営か、委託か。直営では中学校の部活動時間の制約があり、委託では立地、道幅から大きな車両が入れないということがあるがどう考えるか。職員配置で実際に免許を持つ先生を揃えるのは実際には難しいと思うが、加配は考えるのか。統廃合で特に養護教員、事務職員数は確実に減るがどうとらえているか。</p>	<p>地区ブロックの統合検討の際には、ブロック全体の中で地形など諸々考慮して統合先を決めるが、要素として交通の便も挙げられる。基本的にはバス通学助成制度を活用するが、長小と銭小では専用バスを運行している。中学校は部活動での制限を受けるので路線バス利用で定期代全額助成としている。</p> <hr/> <p>先生の人数が増えることで、教科のバランスはある程度確保できる。末広中でもTT加配あるが、統合校でもティーティーチングや生徒指導加配を使うようにするとともに、その拡大を国や道に働きかける。</p> <hr/> <p>今回、素案で2つの柱で話している。22年度にはそれぞれの地区で色々と話すことになるが、今の段階で学校の配置が決まらぬうちに教員配置では言えないが、教科で1人では教材の話もできない。統合で(配置増となるので)教科の部会ごとに先生方が話し合っって資質を向上させながら子供たちに楽しく面白い授業ができる。そういう学校であってほしい。事務職や養護教員は別に考えていきたい。</p> <hr/> <p>先生以外(の参加者)に制度の説明をするが、教員数は学級数によって決まる制度だ。6学級は校長除き10人定数だが、望ましい規模の9学級では、15人。9教科がまんべんなく配置されるかどうかは一概には言えないが、土壌は整う。それが学校運営上の狙いで、結果として子供の利益となる。一定の規模は、教科担任制の中学校では大きなもの(メリット)がある。</p>
	<p>5</p> <p>中学校で路線バス通学となる場合、北山中では梅源線の本数が少ない、末広中ではバス停からの距離が1kmなど現実問題として難しいと思うが。</p>	<p>このような議論で再編計画の議論が進まないことを心配する。今回の再編計画のポイントは、当然人数が減っていくこともあるが、12P④の統合学校の場所のことだ。通学区域内のバランス、校舎の状況、古い、新しい、どういう施設があるか、グラウンドの広さ、通学上の安全、距離だけではなく山坂、人気のない場所、中心部では信号、歩道のこと。そういうことを勘案して決める。また、交通の利便性や冬期の周辺除雪体制など、学校立地条件としてより良好かという観点もある。10年、15年でまた移るとはならない。これらは教育委員会だけで考えるのではなく、例えば末広A案、北山B案、他の学校C案というように、22年度から地域で具体的に協議する。今は基本となる全体計画で学校再編で進むという合意を図るため説明会を開いている。</p>



高島・手宮ブロック

会 場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
末広中	6	再編に反対の立場ではない。事実、部活の選択肢が広がったらという子供の声を聞いている。仮にC案で小学校を使うとなると、グラウンドや体育館も狭い。建て替えも視野にあると思うが、市の財政が厳しい中で見通しはどうか。	このブロックの中学校をどこの場所にするかは今日の話ではないが、末広中のグラウンド面積は手宮公園のグラウンドを合わせ10000㎡以上で北山中も9000㎡で広い。中心部の菁園中は3000㎡と狭いが工夫して使っている。この地区の小学校を考えると制約はあるが、その理由だけで先に進めないともならないので、次善の策はどうかという話し合いが必要。末広中も5学級になる。知恵を絞りどうするか探っていきたい。